

## 都市計画にもゆがみ

### 防空組織結成で民衆動員

#### 東山区馬町に初の京都空襲

一九四五（昭和二十）年一月十六日、当時左京区吉田上大路町に住んでいた河上肇は、その日の日記に次のように記しました。

……夜半爆音と飛行機の音にて眼さむ。ややありて警戒警報出づ。東山方面に相当の被害ありたるものの如し。新聞紙には出ざるも、死者十七名、負傷者二十名、家屋倒壊二百と伝ふ。

一九四四年七月のサイパン島陥落により、十一月から同島発進のB29による本土空襲が本格化し始めたのです。河上が記した一月十六日の空襲は、東山区馬町方面におけるもので、京都府下で初めてのものでした。ただし、実際の被害は、死者・負傷者ともそれぞれ四十余名、被害家屋も三百戸以上にのぼっていました。河上の日記には、その後も頻繁に空襲関係の記事が記されていますが、京都市内において、馬町空襲とやらんで比較的大きな被害を出した空襲としては、六月二十六日の上京区出



水周辺に対するものがあり、五十人が犠牲になりました。

## 防空大演習を機に防護団を結成

航空機は、第一次世界大戦以来、急速な発展をとげました。そのため、防空対策は、国防の中でも重要な位置をしめるようになり、一九二八年七月の大阪を皮切りに、各地で防空演習が実施され始めました。そして、満洲事変後になると、こうした防空演習を利用して、防護団とよばれる防空団体の結成が、軍部や警察を中心にしてすすめられ、国民を戦争へ動員する手段として利用されるようになりました。

一九三四年七月の近畿防空大演習は、京都における初めてのおおがかりな防空演習でしたが、その準備過程で市内の各学区ごとに防護団が結成され、演習実施の直前に京都市連合防護団が組織されました。そしてこれらの防護団は、一九三九年には従来の消防組織と統合して警防団へと再編されたのです。さらに同年には、内務省によって、十戸内外の家庭による家庭防空隣保組織の結成が指示され、京都府下では「家庭防護組合」として組織されていきました。これは、その後隣組と一体化され、戦時下の民衆動員の末端組織となっていきました。



ISBN4-89259-213-7 C0021 P2700E

定価2700円(本体2621円)



京都府立図書館



110028557

11032013